

第22回防災アカデミーを開催

●災害対策室

第22回防災アカデミーが、9月19日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて、開催されました。

今回は、小山真人静岡大学教育学部教授による「火山と共生する社会—富士山を例として—」と題する講演が行われました。小山教授は、火山地質学の立場から富士山の研究を進めるばかりでなく、日本地震学会・日本火山学会に



第22回防災アカデミーの様子

よって毎年行われる「地震火山こどもサマースクール」に中心メンバーの一人として取り組むなど、科学知識の社会還元や教育普及といった面でも活躍しています。

講演では、最初に、正確な火山ハザードマップ作成に必要な噴火口の想定範囲、溶岩流や火砕流の影響範囲の見積り方などについて、丁寧な解説がありました。続いて、その結果に基づく被害想定を、いかにして地域住民や観光客にわかりやすく伝えるか、といった工夫の一端が紹介されました。また、富士山のハザードマップを、市民に公表する上で欠かせなかった、行政や観光業との調整についても興味深い話がありました。最後に、危機感をあおるだけの防災では長続きが見込めないこと、火山の恵みも理解した上で、身近な火山を意識して暮らし、必要な知識と知恵を身につけていくことが、防災を持続させる上で最良であることが結論として述べられました。

防災アカデミーは、今後も様々な自然災害を多様な視点からとらえる講演会を毎月開催予定です。

詳しくは、災害対策室ホームページ (<http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/>) をご覧ください。

第1回多文化間ディスカッショングループを開催 —世界的な友情を育む—

●留学生相談室

留学生相談室は、2005年度後期より、留学生の異文化適応、精神面の安定、留学生と日本人学生の相互理解を促進することを目的とし、グループ・アプローチを活用した教育プログラム「多文化間ディスカッショングループ」を始めました。

第1回は、2005年12月から2006年9月にかけて、留学生と日本人学生が定期的に同じメンバー(11名)で集まり、文化に関することや異文化体験、大学生活を送る中で感じていることなどをテーマに計16回のセッションを行いました。最初は、参加者の間に緊張やぎこちなさが見られましたが、話し合いを重ねるうちに、信頼関係が生まれ、日頃

感じている悩みなども、分かち合えるようになりました。

これまで扱ったテーマは、「身近な文化の違い」、「恋愛」、「夢・生き方」、「国際問題と自分の感情」、「家族」、「友人関係」、「進路」、「リーダーシップと役割」などで、自主的に企画した食事会やキャンプを通じて、メンバーは相互理解を深めながら友人関係を築いていきました。参加者からは、「異文化に対して寛容な心を持つことが大切であるということ」を教えてくださいました。(中国・学部生)、「ディスカッショングループは私にとって、自然体でいられる場所でした。(日本・大学院生)」などの感想が聞かれました。

2006年度前期からは、英語によるディスカッショングループも始まり、多文化間ディスカッショングループは留学生と日本人学生の学生生活を支える重要な役割を果たしつつあります。今後は、全学同窓会大学支援事業の助成を受け、学生のファシリテーターと共にグループ活動を行っていく予定です。

詳しくは、留学生相談室ホームページ (<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp>) をご覧ください。



グループの参加メンバー



最後のグループワークに取り組む参加者